

平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	農業委員会運営事業			会計	款	項	目	大	小
				01	06	01	01	01	02
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	農業委員会事務局				
施策	5-4	多様な方面からの農業の振興		主管課長	山崎 哲男				

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	農地を所有している者 農地法に係る許可申請者	意図	優良農地の保全 農地の効率的な利用
事業内容	農業委員会定例総会における農地の権利移動及び農地転用許可等に伴う審査事務 農地パトロール（利用状況調査）業務及び農地違反転用の是正指導			
事業開始から現在までの状況変化	平成16年4月から農地法第4条及び第5条の転用許可関係について、千葉県から権限が移譲され、平成24年からは、農地法第3条について、千葉県から許可権限が移譲されている。農地法に係る許可申請において、農地法を遵守し、適正な指導及び審査を行っている。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	総会議案審議件数	150	133	157	件		審議件数
	農地法に係る許可申請件数	41	38	47	件		申請件数
	農地法に係る許可申請面積	55,394	46,729	61,399	m ²		許可申請面積
指標で表すことができない定性的な成果	議案審査では公平かつ適正な審査を行い、また、その審議内容について、総会議事録として市のホームページで公表し、透明性を図っている。			目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 総会議案審議件数は、対前年比で約18%の増加を示している。また、農地法に係る許可申請面積は、対前年比で約31%の増加を示している。 こういった増加傾向のなか、農地法に係る許可申請の審議に当たっては、法令根拠を明確に示し可否の判断を行っており、優良農地の保全及び確保に繋がっていると考えられる。 事業コストの面においては、前年度と同程度に推移している。			
事務事業のコスト		平成25年度	平成26年度	平成27年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		20,702,720	20,245,804	20,159,920			
事業費(b)(円)		10,097,800	10,077,784	10,078,400			
うち一般財源		10,097,800	10,077,784	10,078,400			
職員給与費(c)(円)		10,604,920	10,168,020	10,081,520			
人役・職員(人)		1.20	1.10	1.10			
人役・再任用(人)		0.50	0.50	0.50			
人役・臨職(人)		0.61	0.36	0.36			
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H27)の改善計画	農地法に関わる許可申請の審議に当たっては、判断根拠を明確に示して行う。また、各種申請等の事務処理を迅速に行う。	取組の課題	許可申請の厳正な審査のほか、農地の保全及び有効活用をさらに推進するため、後継者の育成を図るとともに、新規就農者や農業法人の参入など新たな担い手の確保が期待されている。
今年度(H27)に実施した取組	許可申請の審議に当たっては、判断根拠を明確に示し審議を行い、その内容については、総会会議録を要約することなく正確に作成し、速やかにホームページで公表を行った。	今後の改善計画	農地の有効活用の推進を図るため、農業後継者を基軸としながら、新たな担い手の参入など、農業関係機関との連携を密にし、優良農地の流動化や有効利用の拡大を図る。